

四国こどもとおとなの医療センター 前田和寿氏  
遺伝医療センター長

香川の医療最前線

322



■まだ・かずひさ 1988年徳島大医学部卒。同大病院遺伝相談室室長、同大病院准教授などを経て、2013年9月より現職。院内の総合周産期母子医療センター長を併任。臨床遺伝専門医・指導医、周産期(母体・胎児)専門医、指導医など。54歳。さぬき市出身。

■ 四国こどもとおとなの医療センター 遺伝医療センター

遺伝カウンセリングは月曜～木曜の週4日。相談用の個室は2部屋。臨床遺伝専門医は3人在籍し、迅速に相談に対応している。  
所在地：善通寺市仙遊町2-1-1  
電話：0877(62)1000  
<http://www.shikoku-med.jp/>

胎児に先天性の病気や染色体異常がないかを調べる「出生前診断」。2013年には妊婦の血液を分析して判定する出生前診断が国内で始まり、受診件数は年々増えている。検査の前には、検査の内容や結果が出た後の対応について適切なカウンセリングを受けることが重要だ。四国こどもとおとなの医療センターの前田和寿遺伝医療センター長に出生前診断の現状を聞いた。

分析し、胎児のダウン症など3種類の染色体異常を調べる。対象は出産時に35歳以上の妊婦。血液を専門の研究所に送り、2週間程度で結果が出る。精度は高いが、確定診断には羊水検査

人が多いようだ。検査の流れを。検査自体は採血だけなのでシンプルだが、まずは遺伝カウンセリングを必ず受けてもらう。出生前診断について、正しい知識を持つ

出生前診断

血液分析し、遺伝子調査

事前面談で精神面も支援

― 新出生前診断の受診件数は。2013年4月の開始から3年の間に、全国で約3万人の妊婦が受診したという統計が出ている。当院でも同年9月から本格的に診断を始め、これまでの受診人数は約500人になっている。

― 新出生前診断の受診件数が必要になる。受診者が広がっている理由は。採血だけで検査できるというハードルの低さが大きな要因だろう。費用は1回20万円程度と高価だが、羊水検査は流産のリスクがある。自分と子どもの安心を考えると、まずは新出生前診断を受け、陽性の結果が出た場合に羊水検査を受ける

ている人は実は少ない。出生前診断の種類や内容、それぞれのメリット、デメリットに加え、遺伝性の疾患についての情報も正確に伝え、陽性の結果が出た場合はどう対応するかを考えてもらう。その上で、検査を受けるかどうかを本人が決断する。

― カウンセリングの方法

■ 遺伝カウンセリング

- 出生前診断に関する正確な情報を伝える
- 本人が納得できる結論が出るまで相談に乗り、疑問に答える
- 遺伝に関する内容は、出生前診断以外の内容でも幅広く対応する…など



気構えず、まずは相談を

― 遺伝に関する悩みはナイーブなものが多く、1人で抱え込みがちだ。しかし、誰かに相談するだけで心は軽くなる。当院は看護師や臨床心理士、他の科の医師とも連携を図り、サポート体制を整えている。迷ったらずには連絡し、気構えずに相談に来てほしい。